

学校法人 聖ヶ丘学園 にじの風保育園

施設のアピールポイント及び課題 【2023年度（令和5年度）】

	アピールポイント	課題
I 利用者本人の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権に配慮し、安心できる環境を整え、一人ひとりの発達や自主性を踏まえながら、保護者と一緒に子どもの成長を見守っています。 元気な挨拶を心掛け、明日もまた来たいと思える園作りに努めています。 配慮を要する子どもに対しては、関係機関と情報を共有しながら、無理なく集団の中で共に成長していけるよう対応に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した保育内容の充実や幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿への理解を引き続き深め、保育の質の向上に努めます。 子ども達の興味や関心を察知し、自主的に安心して遊びこめる環境作りの工夫改善に努めます。 関係機関との情報の共有に引き続き努めていくと共に、安心して生活しやすい環境作りに努めます。
II サービスの実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で育つ力」を育ていけるよう保育に努めています。 異年齢で一緒に活動するなかで、思いやりの心や刺激を受け、互いに育ちあっていけるよう努めています。 栽培やクッキング活動、栄養士から箸の使い方などの話を通して、食べることを楽しんでいけるようにしています。 月に1回、専門の講師による楽しく身体を動かす日を行い、遊びながら身体を動かしていく中で、身体の使い方、運動の発達を促しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の園での様子を写真やホームページ、保育参観等、様々な方法でわかりやすく工夫しながら伝えていけるよう引き続き努めます。 玩具や絵本、運動遊具等の見直し、整理整頓を行い、年齢や発達、季節に適したものを入れ替えながら遊びの充実を展開していけるように努めます。 災害に備えた訓練の振り返りを活かした訓練を行い、命を守るための具体的な行動、避難の仕方を身につけていけるようにすると共に、保護者にも伝えていくよう努めます。
III 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> 近隣保育園や小学校との交流の機会を少しずつ増やしています。また、高齢者施設との芋ほり交流も行っています。 小規模保育園との連携をし、連携施設児童の卒園後の受け入れをしています。 園庭開放は月に2回行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣保育園、小学校、小規模連携保育園との交流の計画を立て、増やしていけるよう努めます。 園庭開放の利用者数および貸出図書の認知を引き続き高めていけるよう、お知らせの工夫改善に引き続き努めます。
IV 開かれた運営	<ul style="list-style-type: none"> 当園の様々な情報については、ホームページ、パンフレットに掲載、配布し、説明会並びに園の施設見学等を通じて積極的に最新の情報を発信して理解を深めています。 施設見学、育児相談は随時行っています。メールでの問い合わせにも対応しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度4月よりホームページのリニューアルの周知と共に、内容の充実を図りながら、開かれた運営につながるよう努めます。 実習生及びボランティアの受け入れや施設見学については保育に支障のない限り引き続き積極的に受け入れていくよう努めます。
V 人材育成・援助技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修を受け、職員間で学んだことを共通理解し、人材育成・援助技術の向上に努めています。 質の向上に向け内部研修資料をICTシステムで配信し、全職員が共有し、自己研鑽に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が自らの職位や職務への責任と理解を深めると共に、思いや考えを積極的にかつ安心して伝え合えるよう、質の向上に努めます。 非常勤職員会議を月に1回設けると共に、研修を受ける機会を増やしていけるよう努めます。 学園内の施設職員との交流を行い、子どもの発達への理解や保育内容の充実へと繋げていけるよう努めます。
VI 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な運営を目指し、業務の効率化と改善に向け、人事労務・財務等の面から分析を行い実施しています。 牛乳パックを近隣のリサイクルボックスに持っていくなど環境への関心、リサイクル活動に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業運営の透明性の観点等から、更なる経営及び運営状況等の情報の積極的公開と保育展開に引き続き努めます。 ICTの活用を増やし業務の効率化、ペーパーレス化に引き続き努めます。

評価票

学校法人聖ヶ丘学園 にじの風保育園

2023年度

評価領域 I 子ども本人の尊重

評価分類 I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成

評価項目 I-1-(1)

保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したものとなっている。	
	<input type="radio"/> 全職員が基本方針を理解している。	
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が明文化され、保護者にも周知されている。	
	<input type="radio"/> 保育の実施内容は、基本方針に沿っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育理念、保育方針、保育目標は事務所に掲示するとともに、職員会議などで定期的に周知を図っている。 ・重要事項説明書（園のしおり）に記載しており、保護者には入園説明会やクラス懇談会で説明している。		

評価項目 I-1-(2)

全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 全体的な計画は子どもの最善の利益を第一義にしている。	
	<input type="radio"/> 保育の基本方針や家庭の状況、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成している。	
	<input type="radio"/> 全体的な計画の作成にあたっては、全職員が関わっている。	
	<input type="radio"/> 全体的な計画は入園時や年度当初には必ず保護者に説明している。また、改定した時には随時保護者に説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・全体的な計画は、新保育所保育指針に示す、育みたい資質、能力の〔3本の柱〕や〔幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿〕を念頭に、養護と教育の側面から発達過程に応じた目標を立てて作成している。		

評価項目 I-1-(3)

日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 全体的な計画に基づき、年齢ごとに指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしている。	
	<input type="radio"/> 態度・表情などから子どもの意思を汲み取り、言語化できる子どもからは意見・要望を聞いている。	
	<input type="radio"/> 子どもの意見・意思を指導計画の見直しに生かし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっており、計画には柔軟性を持たせている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・月間指導計画はクラス全体の計画及び、0、1、2歳児クラスは個別の計画を作成している。 ・一人ひとりの姿やその月の評価を行なうことにより、課題を明確にし次月の計画にいかしている。		

評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価項目 I-2-(1)

入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者と面接している。	
	<input type="radio"/> 子どもの様子をよく観察している。	
	<input type="radio"/> 入園までの生育歴や家庭での状況を把握している。	
	<input type="radio"/> 面接時に把握された記録は、日々の保育に生かされている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・児童票、生活状況書などを入園前面談時に提出していただきながら家庭での状況を聞き、把握している。 ・職員会議で周知し、共有して保育に活かしている。		

評価項目 I-2-(2)

新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行っている。	
	<input type="radio"/> 0、1歳の新入園児に対しては個別に主担当保育者が決まっている。	
	<input type="radio"/> 子どもが心理的抛り所とする物の持ち込みができる。	
	<input type="radio"/> 子どもの生活の連続性の視点から、保護者への丁寧な連絡をノートで行っている。	
	<input type="radio"/> 在園児への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・慣らし保育の重要性を伝えると共に、個々の状況に応じて柔軟に対応している。 ・0～2歳児クラスは連絡ノートを活用し、3歳児クラス以上はシール帳や連絡ボードなどで活動の記録等を掲示して家庭との連携をとっている。 ・職員配置を多めにするなど、たくさんの目で安心した関わりが行えるよう努めている。		

評価項目 I-2-(3)

子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、複数の職員が参画して作成している。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、保護者の意向も反映している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・0～2歳児クラスの個別月間指導計画は、年間で子どもの成長発達が読み取れるようにし、月ごとに評価を行っている。 ・トイレトレーニングや離乳食の進め方など、保護者の意向も聞いて反映している。		

評価項目 I-2-(4)

乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの表情や喃語（乳児のまだ言葉にならない声）等に適切な対応をし、応答的な関わりをしている。	
	<input type="radio"/> 保育士等が愛情豊かに受容し、一人一人の生理的・心理的欲求を満たし心地よく生活できるようにしている。	
	<input type="radio"/> 一人一人の発育に応じて、ほう、立つ、歩くなど、十分に体を動かせるようにしている。	
	<input type="radio"/> 身近な生活用品、玩具や絵本などが用意され、興味や好奇心が育つようにしている。	
	<input type="radio"/> 保護者と連携を図り、保育に生かしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・喃語にはゆっくり優しく応えたり、授乳は目を見ながらゆっくり飲めるようにしている。 ・足腰の発達を促していけるよう、マットの山登りやつかまり立ちができる環境を整えている。 ・送迎時の保護者とのやり取りや連絡ノートで細かく情報を共有し、小さな変化も見逃がさないようにしている 		

評価項目 I-2-(5)

1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 自分でしようとする気持ちを大切に、見守ったり、受け止めたり、応答的な対応をしている。	
	<input type="radio"/> 体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行い、子どもに合わせた対応をしている。	
	<input type="radio"/> 一人一人の発育に応じて走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど、全身を使う遊びが楽しめるようにしている。	
	<input type="radio"/> 探索活動が十分できるよう、活動しやすい環境を整えている。	
	<input type="radio"/> 保育士等が、友達との関わり合いの仲立ちをしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・着脱しやすいように服の向きを直したり、さりげなく手を添える等、自分でしようとする気持ちを大切にしている。 ・トイレトレーニングは個々のタイミングを把握したうえで、家庭と連携し対応している。 ・言葉を補ったり代弁しながら、友達との関わり合いを仲立ちしている。 		

評価項目 I-2-(6)

3歳以上児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 3歳児の保育では、集団の中で安定して、遊びを中心とした興味関心のある活動を行っている。	
	<input type="radio"/> 4歳児の保育では、集団の中で自分の力を発揮し、友達とともに楽しめるよう遊びや活動を行っている。	
	<input type="radio"/> 5歳児の保育では、集団の中で一人一人の個性が生かされ友達と協力して一つのことをやり遂げるような遊びや活動を行っている。	
	<input type="radio"/> いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことができるようにしている。	
	<input type="radio"/> 保育所保育指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、遊びの中で環境を整えたり必要な援助を行ったりするなど考慮している。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・無理に誘わずに見守ったり、個別に対応しながら、少しずつ興味の幅を広げていけるように努めている。 ・5歳児クラスが初めての案山子づくりに挑戦し、2グループに分かれどのような形にするのかなどを相談しながら進め、役割の中で友達と協力しながら責任感や意欲をもって取り組んでいけるようにしている。 		

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保

評価項目 I-3-(1)

子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の屋内・外とも、常に清潔に保たれている。	
	<input type="radio"/> 通風・換気等が確保され、気になる臭いを取り除く工夫をしている。	
	<input type="radio"/> 施設内の温・湿度の管理が日々適切に行われている。	
	<input type="radio"/> 陽光を十分取り入れるよう配慮している。	
<input type="radio"/> 音楽や保育者の声などが騒音にならないよう、配慮している。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・自動換気装置が24時間稼働しているほか、こまめに窓を開けて換気している。 ・適切な温度、湿度が保たれるよう、冬場は加湿器を使用して乾燥対策をするなど管理している。 ・全保育室に床暖房を備えている。 		

評価項目 I-3-(2)

沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 沐浴設備がある（ただし、0歳児保育実施施設）。	
	<input type="radio"/> 温水シャワーの設備がある。	
<input type="radio"/> 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃が十分に行われている。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・園庭に温水シャワーの設備があり、冬場の園庭遊びなどは水の冷たさから手洗いがおろそかにならないよう温水で手洗いできるようにしている。 		

評価項目 I-3-(3)

子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 低年齢児には、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫している。	
	<input type="radio"/> 食べる・寝るなどの機能別の空間を確保している。	
<input type="radio"/> 屋内に異年齢児間の交流の場がある。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・2階と3階廊下に絵本コーナーがあったり、2階にテラスがあるなど、異年齢で触れ合えるスペースとなっている。 		

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

評価項目 I-4-(1)

子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 3歳未満児については、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 幼児についても、発達上の課題が見られたり、特別な配慮が必要であったりする場合には、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 個別の目標・計画は定期的（月1回を目安）に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っている。	
<input type="radio"/> 個別指導計画の作成・見直しにおいて、重要部分を保護者に説明し、同意を得ている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0～2歳児は月間個別指導計画を作成している。 ・幼児については、配慮が必要な場合は個別の計画を作成したり、月間指導計画の個別配慮欄に記入している。		

評価項目 I-4-(2)

子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	<input type="radio"/> 入園後の子どもの成長発達記録がある。	
	<input type="radio"/> 子どもの記録内容は全職員が共有できるしくみになっている。	
<input type="radio"/> 重要な申し送り事項が記録され、必要に応じて進級時や転園先の保育所等に伝達されている。		
<input checked="" type="radio"/> B	保育所児童保育要録を小学校に送付している（5歳児在籍施設のみ）。その上でAの中で3つ以上に該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または、該当しない。	
その他の工夫事例： ・児童票、生活状況書、健康調査票など個人別ファイルにまとめてあり、職員は必要時はいつでも見ることができるようになっている。 ・保育所児童保育要録は小学校に送付している。		

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価項目 I-5-(1)

特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 個別のケースについて会議で話し合わせ、記録がある。	
	<input type="radio"/> 最新の情報を職員間で学習し、保育に生かしている。	
	<input type="radio"/> 共有する情報は記録され、いつでも確認できるようファイリングされている。	
B	特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢がある。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児会議、職員会議で情報を共有している。 ・研修に参加し、報告書を回覧して情報を共有し、保育に生かせるようにしている。 		

評価項目 I-5-(2)

障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> バリアフリーなど、障害児保育のための環境整備に配慮している。	
	<input type="radio"/> 保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	<input type="radio"/> 障害の特性を考慮した個別指導計画が立てられている。	
	<input type="radio"/> 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができています。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 令和3年度 2名 令和4年度 4名 令和5年度 5名		
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノート等を用いて、家庭と療育の様子を把握し、個別の指導計画を作成している。 ・療育巡回訪問や訪問支援などでいただいた助言や情報を職員会議などで共有している。 ・障害児保育については重要事項説明書で明文化しており、共に育ち合える関わりに努めている。 ・リレーなど競い合う活動が難しい場合は、バトンを運ぶ役目をするなど友達と関わり同じ活動を楽しめる工夫をしている。 		

評価項目 I-5-(3)

虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 虐待の定義が全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 虐待が明白になった場合に、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えている。	
	<input type="radio"/> 疑わしい場合や見守りが必要な場合は関係機関と連携をとっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書に「児童虐待の通告義務」についてを明文化している。 ・関係機関と連携をとり、予防に配慮している。 		

評価項目 I-5-(4)
アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができていますか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	<input type="radio"/> 全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	<input type="radio"/> 食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、除去食を提供している。	
<input type="radio"/> 除去食を提供する場合は、誤食事故を防止するため専用トレイや専用食器、名札等を使用している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 令和3年度 4名（年度途中で3名全解除） 令和4年度 4名（年度途中で1名全解除） 令和5年度 3名（年度途中で2名全解除）		
その他の工夫事例： ・「アレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらい、指示に沿った対応をしている。 ・除去食の提供は専用トレイや食器を使用し、最初に配膳している。 ・除去していた食物を解除する場合は、医師の指示に基づき、保護者からの書面申請をもって対応している。		

評価項目 I-5-(5)
外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	<input type="radio"/> 文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 意思疎通が困難な場合の対応策がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 令和3年度 1名 令和4年度 1名 令和5年度 1名		
その他の工夫事例： ・日本語を母語としない子どもや保護者には、配付物を翻訳したり、通訳できる職員が代わって説明したりしている。 ・ポケットークを使用するなど意思疎通に努めている。		

評価分類 I-6 苦情解決体制

評価項目 I-6-(1)

保護者が保育についての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 第三者委員に、直接苦情を申し立てることができる。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、意見箱・懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	
	<input type="radio"/> 自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者に対して具体的な配慮がなされている。	
	<input type="radio"/> 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介している。	
<input checked="" type="radio"/> B	要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に保護者に説明されている。	
C	要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・意見箱の設置と第三者委員への連携について玄関に表示し、口頭電話・文章により苦情相談の申し出ができる体制をとっていることを重要事項説明書にて明文化している。 ・苦情受付担当者は主任、解決責任者は園長で、話がしやすい雰囲気作りに努めている。		

評価項目 I-6-(2)

要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 第三者委員を交えて対応する仕組みができています。	
	<input type="radio"/> 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がつけられている。	
	<input type="radio"/> 要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に理解・周知されている。	
	<input type="radio"/> 過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理し、解決に生かしている。	
<input checked="" type="radio"/> B	要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備されている。	
C	マニュアル等文書化されたものが整備されておらず取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・福祉保健サービス全般に関する不満の申し出先として、横浜市福祉調整委員会のチラシを掲示し、鶴見区こども家庭支援課の相談のパンフレットを玄関に置いている。		

評価領域Ⅱ 保育の実施内容

評価分類Ⅱ-1 保育内容

【遊び】

評価項目Ⅱ-1-1(1)

子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもがおもちゃや教材等を自分で取り出して遊べるようになっている。	
	<input type="radio"/> 年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもが玩具や絵本を自由に取っだして遊べるようにしている。 ・成長や発達にあわせて玩具や絵本を入れ替えを行っている。		

評価項目Ⅱ-1-1(2)

遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ自由にごっこ遊びをしたり、落ち着いて一人で遊んだりしている。	
	<input type="radio"/> 一斉活動は、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友達関係やルールを守る等の社会性を重視して、年齢に応じて取り入れている。	
	<input type="radio"/> 自由遊びの中で一人一人が興味・関心を持って遊べるよう、保育士が援助している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年齢に応じたルールのある遊びを取り入れている。 ・散歩では交通ルールも身につけていけるようにしている。		

評価項目Ⅱ-1-1(3)

動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが散歩等で、日常的に地域の大人や子どもたちと挨拶・会話を交わしている。	
	<input type="radio"/> 園外活動で地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・栽培している野菜の生長を絵に描いたり、収穫した野菜を使ってクッキングをするなど食育活動を行っている。 ・年齢や発達、季節等に合わせた選択しながら、近隣の公園などで自然と触れ合える機会を大切にしている。		

評価項目Ⅱ-1-1(4)

子どもが歌やリズム、絵や文字、体を動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自由に使えるように様々な素材を用意するなど配慮されている。	
	<input type="radio"/> 子どもが自由に歌ったり、絵や文字を描いたりしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・粘土、クレヨン、色鉛筆、自由画帳などは年齢に応じて道具箱や棚の中に用意し、自由に使えるようになっている。 ・子ども達がラキューで作ったひな人形やケーキを棚の上に飾ったり、誕生会でケーキを活用するなど意欲につなげている。		

評価項目Ⅱ-1-(5)
遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子ども同士のけんか等については、危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助している。	
	<input type="radio"/> 異年齢の子ども同士が関わりを持てるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 職員は、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・異年齢でグループを組んで活動する機会を作っている。 ・ケンカ等については、お互いの気持ちを伝えあえるよう年齢に応じながら職員が仲立ちしたり、見守るようにしている。		

評価項目Ⅱ-1-(6)
積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを積極的に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを行う際には、紫外線対策やアレルギーへの対処を行っている。	
	<input type="radio"/> 様々な遊びの中で、子どもの興味や関心、能力に応じて全身を使って楽しく活動できるよう工夫している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・散歩先や帰園後の手洗い手指消毒の徹底に努めながら園外への散歩に出かけているが、散歩先が混雑している時などは行き先を変更するなど、密にならないように努めている。		

【生活】
評価項目Ⅱ-1-(7)
食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士が、子どもの負担になるほどに残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりせず、個人差を考慮しながら援助している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、適切な言葉かけや援助をしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に関心を持つよう工夫している。	
	<input type="radio"/> 野菜などの栽培や、様々な食材を目にしたり触れたりする機会を設け、調理員との関わりにも配慮している。	
	<input type="radio"/> 乳児の授乳にあたっては、ほしがるときに、抱っこして声をかけながら与えるようにしている。（注※1）	
	<input type="radio"/> 授乳するときや離乳食を食べさせる時は、子どものペースを尊重している。（注※1）	
B	Aの中でいずれか4つは該当する。対象乳児がない場合は2つは該当する。	
C	Aの中で1～3つ該当する、または全く行っていない。対象乳児がない場合は1つのみ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・幼児クラスは自分が食べられる量を伝え配膳するなど、食事への意欲や完食できる喜びを味わえるようにしている。 ・その日のメニューの3つの食品群マグネットを玄関に掲示したり、食事前にお当番がメニューを言うなど、食事や体に関心が持てるようにしている。 ・苗から育てた野菜を収穫し、厨房へと持っていき、給食で提供していただくなど関わりを持てるようにしている。		

評価項目Ⅱ-1-1(8)
食事の場、食材、食器等に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 季節感がある献立や食欲がわくような盛りつけなどの食事作りに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食事の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食材や食器の安全性に配慮している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・行事や誕生会、郷土メニューなどのお楽しみメニューがあり、食事への興味関心を広げている。 ・箸は発達に合わせて使用するなど、個々に対応している。		

評価項目Ⅱ-1-1(9)
子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に生かしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫している。	
	<input type="radio"/> 栄養士や調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見る機会を設けている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・月1回給食会議を行ない、麺の長さや食材の大きさ、味付けなどを次の提供時に活かしている。 ・食事の様子を栄養士が見に来たり、食材についての話をしてくれたりしている。		

評価項目Ⅱ-1-1(10)
子どもの食生活について、家庭と連携しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 献立表を作成し、事前に配布している。	
	<input type="radio"/> 献立作成のポイントを明記した情報提供を行っている。	
	<input type="radio"/> 定期的にレシピを提示し、保護者に保育所で提供する食事に対する関心をもてるようにしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・玄関に食事のサンプルを置き、量なども知らせている。		

評価項目Ⅱ-1-1(11)

午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしている。	
	<input type="radio"/> 安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。	
	<input type="radio"/> 乳幼児突然死症候群に対する対策を行っている。	
	<input type="radio"/> 年長児には適当な時期から午睡を一斉活動としていない。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0歳児クラスは午睡センサーアプリを導入し、SIDSに対する対策を行っている。		

評価項目Ⅱ-1-1(12)

排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重している。	
	<input type="radio"/> トイレトレーニングは一人一人の発達状況に応じて個別に対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所での排泄状況を保護者に伝え連携を密にしている。	
	<input type="radio"/> おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・トイレトレーニングは、家庭での様子を話し合い、一人ひとりの状態に合わせて無理のないように進めている。		

評価項目Ⅱ-1-1(13)

長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの状態に応じ、ゆったりとくつろいで過ごすことができるよう、玩具やコーナーを工夫し環境を整えている。	
	<input type="radio"/> 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつを提供している。	
	<input type="radio"/> 子どもの状況について、保育士間の引き継ぎを適切に行い、子どもが安心して過ごせるようにしている。	
	<input type="radio"/> 担任等子どもを担当する保育士と保護者の連携が十分にとれるよう配慮している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・異年齢で過ごす際には、安全に配慮して、年齢に適さない大きさの玩具は使用しないようにしている。 ・申し送りファイルに記入するとともに口頭でも引継ぎをしている。		

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理

【健康管理】

評価項目Ⅱ－２－(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人一人の健康状態を把握している。	
	○ 既往症について常に保護者から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。	
	○ 必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	
	○ 食後の歯磨き指導を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・入園後の予防接種歴や病歴については、登降園時に保護者から情報を得て職員が生活状況書に記入し、朝礼や職員会議等で情報を共有している。		

評価項目Ⅱ－２－(2)

健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 一人一人の健康診断・歯科健診の記録がある。	
	○ 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、連携を密にしている。	
	○ 健診結果に基づき、嘱託医やかかりつけ医との連携を図っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・健康診断結果票、歯科健診結果票を渡してお知らせし、早期治療につなげている。		

評価項目Ⅱ－２－(3)

感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記され、保護者に周知している。	
	○ 保育中に発症した時は、保護者への連絡をすみやかにし、対応については保護者の事情も考慮している。	
	○ 感染症が発生した時は、速やかに保護者に情報提供している。	
	○ 感染症に関する最新情報を職員が共有している。	
ⓑ	感染症等への対応に関するマニュアルがある。	
C	感染症等への対応に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・感染症が発生した場合には、「罹患情報」を玄関に掲示したり、お知らせ一斉配信にて連絡をしている。		

【衛生管理】

評価項目Ⅱ-2-(4)

衛生管理が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> マニュアルは、職員参加により定期的（内容により異なるが、最低年1回を目安）に見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的（採用時に1回、採用後は最低年1回）に研修を実施するなど、具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれている。	
<input checked="" type="radio"/> 衛生管理に関するマニュアルがある。		
C 衛生管理に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。		
その他の工夫事例： ・室内の手の触れる箇所を消毒で拭くと共に、除菌ボックスを使用して玩具をこまめに消毒し、清潔を保っている。		

【安全管理】

評価項目Ⅱ-2-(5)

安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中等の場面で重大事故が発生しやすいことを理解し、子どもの主体的な活動を大切にしつつ対策を講じている。	
	<input type="radio"/> 地震等を想定し、備品等の転倒防止など安全対策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルは、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 緊急連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を実施している。	
	<input type="radio"/> 職員が救急救命法を身につけている。	
<input checked="" type="radio"/> 安全管理に関するマニュアルがあり、Aの中で4つ以上該当する。		
C 安全管理に関するマニュアルがない。または、Aの中で1～3つ該当する、または全く行っていない。		
その他の工夫事例： ・プール、水遊び活動中は監視員を1名必ず配置し、安全対策に努めている。 ・地域防災拠点である駒岡小学校まで避難する訓練を実施している。		

評価項目Ⅱ-2-(6)

事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録している。	
	<input type="radio"/> 職員会議などで事故の報告、再発防止策の検討が行われ改善策が実行されている。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・ヒヤリハット、ケガの記録、事故記録簿を記入し、原因の分析や改善策など職員会議内で共有し、再発防止に努めている。		

評価項目Ⅱ-2-(7)

外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 不審者等の侵入防止策（出入口の施錠等）が講じられている。	
	<input type="radio"/> 不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
	<input type="radio"/> 不審者の情報が関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができています。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・警備会社と契約し、24時間警備システムを導入し、防犯カメラを設置している。 ・不審者対応訓練を年に3回行い対応策の見直しを行うと共に、自分で自分の身を守る大切さも伝えている。		

評価分類Ⅱ－3 人権の尊重

評価項目Ⅱ－3－(1)

保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	<input type="radio"/> せかしたり強制したりせず、穏やかに分かりやすい言葉で話している。	
	<input type="radio"/> 子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもの人格を辱めるような罰を与えたり、自尊心を傷つけるような保育を行ってはならないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもの呼び方は呼び捨てにはしないことを、職員間で相互確認している。 ・否定的な言葉使い、言葉かけはしないよう、肯定的な言葉で対応するように努めている。		

評価項目Ⅱ－3－(2)

必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、プライバシーを守れる場所を用意することができる。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・身体測定や夏場の園庭での泥んこ遊び後の着替えなど、カーテンやパーテーションを閉めて、外部から見えないよう配慮している。 ・落ち着いて過ごせる場所として廊下などを使用している。		

評価項目Ⅱ－3－(3)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについて、保護者に説明し理解を得ている。	
	<input type="radio"/> 個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管、管理している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・個人情報の取扱いに関しては、職員会議等で個人情報保護の重要性を周知している。 ・写真の取り扱いに関しては保護者に承諾を得ており、パンフレットなど公にする際には個別に承諾を得ている。		

評価項目Ⅱ－3－(4)

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	<input type="radio"/> 順番、グループ分け、整列など性別にしていない。	
	<input type="radio"/> 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
	<input type="radio"/> 無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員同士で反省する仕組みをつくっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・活動におけるグループ分けや制作時の色の選び方など、性差に囚われない保育を心がけている。 ・母の日、父の日ではなくファミリーデーとし、感謝のプレゼントを作るなどしている。		

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携

評価項目Ⅱ－４－(1)

保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に対しては、全体会または懇談会などで説明する機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、園独自のアンケートなどで保育方針が理解されているかどうか把握している。	
	<input type="radio"/> 日常保育の中で、園だよりや連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・重要事項説明書（園のしおり）やパンフレットに保育理念、保育方針、保育目標を明記している。		

評価項目Ⅱ－４－(2)

個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの送迎時に、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 連絡帳やメールなどできめ細かに情報交換を実施している。	
	<input type="radio"/> 保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・個人面談期間を設けて保護者の意向を確認し、個人面談を行っている。又、必要に応じて随時個人面談を行っている。 ・クラス懇談会は年2回行っている。		

評価項目Ⅱ－４－(3)

保護者の相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 相談内容などを人に聞かれないで相談できるよう、配慮している。	
	<input type="radio"/> 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制になっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・相談室で面談を行い、プライバシーに配慮している。		

評価項目Ⅱ-4-(4)

保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 「園だより」などを定期的に発行している。	
	<input type="radio"/> 園内に、その日の保育の様子を知らせる情報を掲示している。	
	<input type="radio"/> クラスごとの保護者懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	
	<input type="radio"/> ビデオや写真などを撮って、日常の保育の様子を伝える努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・活動を写真に撮り、保育の様子を視覚的にもわかりやすく伝えられるよう努めている。 ・クラスだよりでは保育の様子を具体的に伝えられるようにしている。		

評価項目Ⅱ-4-(5)

保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 年間行事予定であらかじめ日時を知らせ、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすくしている。	
	<input type="radio"/> 保育参観または保育参加を積極的に受け入れている。	
	<input type="radio"/> 保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へのフォローを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育参観期間をクラスごとに設け希望者のみとしているが、参観期間中に都合が合わない希望の方の場合は保護者の意向を確認し、別日を設けるなど参観しやすいよう配慮している。 ・懇談会に出席できなかった保護者に対しては、個別に内容を伝えている。		

評価項目Ⅱ-4-(6)

保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 保護者が自主的な活動をできるように場所等の提供をしている。	
	<input type="checkbox"/> 保護者の活動に要請があれば職員も参加をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者（組織）とは常にコミュニケーションをとっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・運営委員会を年3回開催している。委員は、保護者2名、地域・他3名、園長、主任で構成しており、保護者から意見や提案を受けている。		

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価項目Ⅲ－１－(1)

地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 地域の保護者や子ども等との交流の中で、保育所に対する要望を把握するための具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> 地域の保護者等に対する相談事業を通じて把握している。	
	必要に応じて関係機関や他の保育所等との検討会・研究会を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・園庭開放や育児相談、園の見学に来られた方等の相談内容から、保育ニーズを把握している。		

評価項目Ⅲ－１－(2)

地域の子育て支援ニーズに応じて保育所の専門性を生かしたサービスを提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 地域の子育て支援ニーズについて、定期的（年に1回程度）に職員間で話し合われている。	
	<input type="radio"/> 地域での子育てを支援するためのサービス（一時保育、交流保育、園庭開放等）を提供している。	
	地域の保護者や子ども等に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・地域の子育て通信などをお知らせボックスに入れ、情報を知らせていけるよう努めている。		

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を生かした相談機能

評価項目Ⅲ－２－(1)

地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 情報提供や育児相談を実施している。	
	育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応している。	
	保育所からのお知らせを地域に回覧するなどして、情報提供に努めている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・育児相談については相談日を設けてはいないが、メール等で随時問い合わせ等に対応している。		

評価項目Ⅲ－２－(2)

相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 必要な関係機関・地域の団体等をリスト化する等により情報を職員が共有している。	
	<input type="radio"/> 関係機関との連携の担当者が決められている。	
	<input type="radio"/> 関係機関・団体等との日常的な連携ができている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・鶴見区こども家庭支援課ほか、関係機関とは連携をとっている。		

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価項目Ⅳ－１－(1)

保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 保育所の行事に地域の保護者や子ども等を招待している。	
	<input type="radio"/> 自治会・町内会、学校、ボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、地域の団体、機関と定期的（年1回以上）、計画的に交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 小中高等学校など、学校教育との連携を積極的に図っている。	
	<input type="radio"/> 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行っている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・設置法人の専門学校生の実習先として連携を図っている。 ・必要時にAEDの貸し出しができることを知らせていけるようAED設置のステッカーを玄関に貼っている。		

評価項目Ⅳ－１－(2)

子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。	
	<input type="radio"/> 日常的に地域の人達と接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている。	
	<input type="radio"/> 日常的に他の保育所・学校・福祉施設等との交流を図っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・横溝屋敷や熊野神社に散歩やお参りに行ったり、介護施設の畑でサツマイモ掘りをしている。 ・年長交流で近隣保育園と交流したり、小学校見学などの交流をしている。 ・近隣のホームセンターやショッピングセンターに野菜の苗やクッキングの食材の買い物に行っている。		

評価分類Ⅳ－２ 保育所における福祉サービスに関する情報提供

評価項目Ⅳ－２－(1)

将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している。	
	<input type="radio"/> 外部の情報提供媒体に対して保育所の情報を提供している。	
B	保育所として、すすんで福祉サービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を提供している。	
C	Aの中でいずれか1つは該当する。	
その他の工夫事例： ・園庭柵に園庭開放のお知らせボックスを設置したり、ホームページに重要事項説明書など情報公開している。 ・保育士を目指す学生の園探し、園見学専門サイト（えんみつけ）に登録し、情報を提供している。		

評価項目Ⅳ－２－(2)

利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の基本方針や利用条件・保育内容等についての問い合わせに対しては、常時対応できるようになっている。	
	<input type="radio"/> 利用希望者に見学ができることを案内している。	
	<input type="radio"/> 保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応している。	
ⓑ 保育所の基本方針や利用条件・保育内容等について、パンフレット等の資料や文書に基づいて説明している。		
c 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・見学は予約制で随時受け付けている。メールでの問い合わせにも対応している。		

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ

評価項目Ⅳ－３－(1)

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や保護者に基本的考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> ボランティアの感想や意見を園運営に反映させている。	
ⓑ 受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づきボランティアに対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。		
c 受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。		
その他の工夫事例： ・高校キャリア教育の一環として、高校内進路ガイダンスに出向いたりしている。		

評価項目Ⅳ－３－(2)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や保護者に基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> 実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。	
	<input type="radio"/> 実習生と職員との意見交換の機会を設けている。	
ⓑ 受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。		
c 受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。		
その他の工夫事例： ・学校側の実習のねらいや目標を職員に伝え、効果的な実習が行えるようにしている。		

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類V-1 職員の人材育成

評価項目V-1-1(1)

保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を逐次行っている。	
	○ 保育所の理念・方針を踏まえた保育を実施するよう、人材育成の計画が策定されている。	
	○ 保育所の保育の課題や職員のキャリアパスも見据えて、体系的な研修計画が作成されている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数に応じたキャリアパス研修計画をたて、役職制度の仕組みがあり、職務内容を明確にしている。 ・年度の初めに各自目標を定め、年度終わりに自己評価を行っている。 		

評価項目V-1-1(2)

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	B
	○ 内部研修が定期的実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	○ 園外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が特定の職員に偏ることなく積極的に行われている。	
	○ 研修の成果を職場で生かすための工夫がされている。	
B	○ 研修の成果を評価して、研修内容を常に見直している。	
C	○ 職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	○ 保育所としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員においては、内部研修に必ずしも受講できているとはいえないため、可能な限り受講できるよう取り組んでいく。 		

評価項目V-1-1(3)

非常勤職員等にも日常の指導を行っているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 業務にあたっては職員と非常勤職員の組み合わせなどの配慮をしている。	
	○ 非常勤職員に対し、職員と同様に資質向上への取り組みを行っている。	
B	○ 非常勤職員の指導担当者が定められ職員間のコミュニケーションが図られている。	
C	○ 非常勤職員にも業務マニュアルが配布されている。	
C	○ 業務マニュアルもなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・日々の情報伝達や会議録の回覧を徹底している。 		

評価分類V-2 職員の技術の向上

評価項目V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 職員の振り返りや、保育所の自己評価を計画的に行う仕組みを持っている。	
	<input type="radio"/> 工夫・改善した良いサービス事例をもとに、一層の保育の質の向上を目指した会議・勉強会が開かれている。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・横浜市指導監査や第三者評価を受けている。		

評価項目V-2-(2)

保育士等が保育や業務の計画及び記録を通して自らの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等一人一人が、自己の実践の振り返りをし、文章化できるように計画や記録の書式が定型化されている。	
	<input type="radio"/> 振り返りは、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われている。	
	<input type="radio"/> 保育の振り返りは、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行っている。	
<input type="radio"/> 保育士等一人一人が振り返りを通して自己の実践を評価し、改善やその後の計画作成に反映させている。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育の振り返りは、できた、できないではなく、取り組む過程を大切にしている。		

評価項目V-2-(3)

保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果を互いに報告し合い、話し合っている。	
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。	
	<input type="radio"/> 保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、全体的な計画に沿って行われている。	
<input type="radio"/> 保育所としての自己評価を公表している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育士等の自己評価の結果から個々の課題と共に保育所としての課題を明らかにし改善に努めている ・学園のホームページに、園の自己評価を公表している。		

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持

評価項目V-3-(1)

総合的な人事管理が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 法人（保育所）の理念・基本方針にもとづき人材育成計画が示されているとともに、配置や昇進・昇格等に関する人事基準が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 評価については、職員に開示する仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・就業規則や給与規程に職員の異動や昇給などについて明確に定められ、職員に周知している。		

評価項目V-3-(2)

本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="checkbox"/> 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと保護者の状況に応じ自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化している。	
	<input type="checkbox"/> 職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 個別の面接・調査等により、職員の満足度・要望などを把握している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年に1～2回、園長と個別面談を行っている。日常的にも業務上の意見や要望を聞いたり、相談がある時には随時個別面談に応じている。		

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価項目VI-1-1(1)

保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化され職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 経営、運営状況等の情報が積極的に公開されている。	
	<input type="radio"/> 保育施設での不正、不適切な事案を題材とした研修を行い、それらの行為を行わないよう啓発している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・学園のホームページに資金収支予算書、財務諸表、自己評価、第三者評価、重要事項説明書を公開している。		

評価項目VI-1-1(2)

公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われているか。

注) 本項目は、市立保育所については非該当とします。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所における事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に明文化したものを配布している。	
	<input type="radio"/> 保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
	<input type="radio"/> 外部監査の指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・月に一度、学園財務部による内部監査で現金監査を行っている。		

評価項目VI-1-1(3)

保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 環境配慮の考え方、取り組みが明文化され、運営に生かされている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・近隣スーパーのリサイクルボックスに牛乳パックやペットボトルキャップを入れたり、横浜市資源循環局の3R夢ゴミ収集車出前教室にて食品ロスのお話を紙芝居でわかりやすく教えていただいたり、ペットボトルを収集車の中へ入れる収集体験などを通して環境への関心、リサイクル活動に取り組んでいる。		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価項目VI-2-(1)

保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を明文化したものを掲示または職員に配布している。	
	<input type="radio"/> 職員に朝礼・会議等で周知し、理解を促すための説明をしている。	
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を職員が理解できているか、施設長・主任が定期的（採用時1回、採用後は最低年1回）に確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・事務所に保育理念、保育方針、保育目標を掲示するとともに、会議等で定期的に説明し繰り返し周知を図っている。		

評価項目VI-2-(2)

重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 重要な意思決定にあたり、施設長は保護者と継続的に意見交換をしている。	
	<input type="radio"/> 重要な意思決定（変更）について、職員及び保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を前もって十分に理解できるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組む仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・重要な意思決定（変更）をする場合は、職員や保護者に変更理由や経過などを文章にして掲示したり、配信（配布）している。		

評価項目VI-2-(3)

主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがある。	
	<input type="radio"/> 主任が個々の職員の業務状況を把握できる仕組みがあり、有効に機能している。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員の能力や経験にあわせた確かな助言や指導を行っている。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、具体的な配慮を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・主任は全体の状況を把握して組み合わせを考え、シフトを作成している。		

評価分類VI-3 効率的な運営

評価項目VI-3-(1)

外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所運営に影響のある情報を収集・分析している。	
	<input type="radio"/> 重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている。	
	<input type="radio"/> 運営面での重要な改善課題について、職員に周知し、保育所全体の取り組みとしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・小規模連携やICT化への取り組みについて職員に周知している。 ・中長期計画等で課題について職員に周知し、保育所全体の取り組みとして努めている。		

評価項目VI-3-(2)

保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

注) 本項目は、市立保育所については非該当とします。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 中長期的な計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	
	<input type="radio"/> 次代の保育所運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討している。	
	<input type="radio"/> 次代の保育所運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成している。	
<input type="radio"/> 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・中長期計画の策定は法人本部が取りまとめて行っている。		